

科学研究費補助金（若手研究（S））研究進捗評価

課題番号	19672001	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	中国隋唐時代の俑に関する総合的研究	研究代表者 (所属・職)	小林 仁 (大阪市博物館協会・大阪市立東洋陶磁美術館学芸課・主任学芸員)

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>中国隋唐時代の俑について、地域ごとの現地調査については、ほぼ予定通りに進み、それを通じて確実に新たな知見が得られていると判断できる。総体として順調に研究が進展しており、研究期間内に、体系的・総合的な美術史的研究を総括する成果をまとめることは難しいとしても、隋唐時代の俑に関わる資料収集ならびにその整理、仮説の構築等については、本邦における俑研究の最先端となるべく、十分に期待どおりの成果が見込まれる。すでに口頭発表された個別の報告については、やがて論文の形で公表されることと思われ、成果の公表についても十分に努めていると判断できる。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>中国隋唐時代の俑に関する各地域の現地調査についても、またそれに基づく研究成果（中国語研究論文5点）に関しても、美術史（俑の様式変遷と地域性の解明）及び陶磁史（製作技法と流通）という観点から見る限り、研究計画どおりの成果を十分に達成したと判断できる。</p> <p>今後も収集された膨大な資料の整理と分析に多大な時間を要すると推測されるが、早い時期に「隋唐時代の俑に見られる葬送観念の解明」という本研究の最終的な到達目標を達成されることを期待する。</p>